

一般質問発言通告書

議席番号 21 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 障がい者に寄り添う「まちづくり」の推進について

(1) 障がい者に優しい都市機能の充実について

- ① 公共交通機関、道路、建物等において利用者に移動面で困難をもたらす物理的バリアを解消するためのバリアフリーに対する今後の整備方針について伺う。
- ② 令和4年5月「障がい者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が公布・施行された。平成21年に「あいサポート運動」を開始した鳥取県でこの法律の環境整備を行うために「鳥取県視覚障がい者遠隔サポートシステム」を開始。本市も情報が届きにくく社会参加もハードルが高いとされる障がい者の支援のために、この法律に基づく戦略があるのか市長に伺う。

(2) 障がい者に対する積極的な就労支援について

先日お盆の14日、地元紙に「障がい者5000人が解雇・退職」という衝撃の見出しが躍った。就労継続支援A型事業所就労事業所329所が閉鎖され、国の報酬引き下げが要因と指摘されている。今後の障がい者就労支援に、より自治体の責任が問われる。

- ① 今回の影響も含め、現在の市内の障がい者就労状況をどう把握しているか伺う。
- ② 令和5年10月には福祉環境委員会より「就労支援を含めた障がい者支援について」提言書も提出されている。その中で、行政に期待する項目で「障がい者の受け入れ企業の拡大に関しては、健康福祉部と産業経済部が連携して積極的に推進すべき」と提言しているが施策推進の内部体制は万全なのか伺う。
- ③ 障がい者就労に関してハローワークと自治体の連携は益々重要度を増していると認識している。提言書では「障がい者就労支援ネットワーク」の構築を大きな課題と指摘しているが現在の進捗状況に関して伺う。

2. 今後更に取り組むべき教育課題について

(1) 人口減少の中での学校規模の適正化に関する所見について

- ① 最近の学校統合計画により当面の学校再編計画は粛々と進んでおり、今後学校改築計画も予定されている。この計画が完了後、次の再編・改築計画の議論を始めるとも伺ったことがあるが、少子化が加速する中、近い将来を見据えた議論を開始すべきではないか。今後の学校規模適正化に関する所見について問う。

(2) 学校教育における運動系部活動の意義について

- ① 令和9年より全中大会で9種目の縮減が打ちだされた。その状況に、競技によっては高校進学にあたり重要なキャリア形成の機会が奪われると全国で異論が噴出。学校教育における今後の運動系の部活の活動意義を問う。

(3) 学校における熱中症対策のガイドライン整備について

- ① 今年の夏は想像を絶する異常なまでの猛暑が日本を襲った。そのような状況下で本年4月に「学校における熱中症対策ガイドラインの手引き」の追補版が出された。当市も学校における熱中症予防体制、緊急時体制等の熱中症対策ガイドラインの整備を行い、学校現場への周知徹底を行っていると思うが、現況に関して伺う。

3. 未来へ向けた林業振興の課題について

(1) 林業ビジネスモデルへの挑戦について

- ① 浜田市は平成7年11月に約2億円で現在の弥栄町にある「笠松市民の森」を購入し浜田市が管理しているが、現在も行政財産として所有する具体的メリットについて伺う。
- ② H23.11「補助金に頼らない林業ビジネスモデル」レポートをコマツ坂根会長に提出して取組をスタート。H24～26にハーベスタ等の高性能林業機械を導入。しかしながら、種々の理由によりプロジェクトの目標達成ができなかったと認識している。その際、プロジェクトの再興に繋がるような総括はなされなかったのか伺う。
- ③ 過去素晴らしいプロジェクトが始動し、新たな林業ビジネス目指そうとしていたが中断はとても残念である。そこで「笠松市民の森」や「ふるさと体験村」を実証実験フィールドに設定し、再び伐採からチップ製造等、ICTも駆使した多角的な森林戦略を若者に指導する「林業技術トレーニングセンター」の設置に取り組む考えはないか所見を問う。

(2) 公共工事における浜田産材の地産地消の推進について

- ① 今まで浜田産材の使用に関して前向きな取り組みがなされてきたと認識しているが、十分な成果が上がっていないのではないかと推測するが今後の浜田産材の公共工事における使用に対する所見に関して伺う。